

1	親子関係 子どもの発達	家庭での教育 親育ち 子どもの育ち 孫育て
---	----------------	--------------------------------



中は開放的で明るく居心地がいい

屋外の広場にテントか東屋があれば。食事や読書するには暑かったりするのでは？

適度なザワザワ感。気軽に利用出来そうな印象

郷土資料が自然に、センスよく配置されていて、身近なものに感じるように工夫されている

クッション、児童用の遊具が図書館の雰囲気合うように配置されている

四万十町の図書館が出来るときも、ランドスケープデザインにも力を入れてほしい。春夏秋冬で図書館を楽しめると嬉しい。

・サイン、本の分け方、タイトルのつけ方
利用者目線で工夫されている

・探していた分野以外のジャンルにも手をの伸ばしたくなる

・チラシ、パンフの管理の対策は四万十町でも重要

・町の情報、議会便りも同様

・ジャンル別、形態別、など「分け方」でとても工夫されている

・お金のかからないアイデアで、同じ本でも違う視点で見られて楽しい。BOOKレビュー。

・同じように、利用者が常に「受け手」ではなく「発信者、サービス提供者」になるような試みもあってもいいかもしれない



・光を取り込むような設計？により、館内が開放的な雰囲気になっている

・実際の利用者に聞いてみると、混雑時にはカウンター席があっても足りないことがあるとのこと

・ある程度、子どもがはしゃいでしまっても、走ってしまってもかまわないというような許容範囲の広さ（実際のスペースと考え方）



・利用者の住み分けが、できるようにしてある

・このことが利用しやすさに反映されている

・放送大学、ワークショップも提供されているので、生涯学習にとっても良いと感じる

・近頃、されていないと問題視されている「大人の学び直し」の機会にも良いのでは

・結果、年齢にしばられない利用の仕方、世代間交流が生まれるので利用者数もある程度、確保できるのでは



・母子用に授乳室、ベビーベッド、給湯室がある

・利用人数が多い時には少し手狭になるのかも。拡げるのか、利用の仕方でも工夫するのか。

・10分でも赤ちゃんや幼児をみてもらえるサービスがあると利用者はとても増えるとは思う

・洞窟のような雰囲気のある「おはなし部屋」子どもの記憶にもしっかりと残りそう

・支援センターと連携して何かできないかな？

その他

- ・館長は公募で選ばれていたとのこと。

四万十町図書館においても、全国・世界各国からの応募、
または一本釣りにて、知識と知恵と情熱のある、優秀な人材を館長に選抜して頂けたらと
思います

- ・建物に関しても、もみわ図書館のようにコンペ式ではなくプロポーザル。
町民が積極的に参加して設計段階から意見が取り入れられるような仕組みが
ほしいです

- ・<https://www.projectdesign.jp/201712/free-resources/004242.php>
伊藤真理さんが伝えているように、図書館の「これからの役割」を担っていけるような
ハード面とソフト面の造りを希望します

- ・時代の変化は今までになく速い。予想できないことの方が多い。
その時、その時でできるだけ柔軟に対応が可能な施設づくり（ソフトもハードも）が
求められているのではと感じます

- ・図書館のハード・ソフト面、両面の構想において、四万十町でも
参考にすべき点は多かったと思います

- ・移動バスも活躍しているようで、四万十町のような広い地域には
やはりほしいアイテムだと感じます

- ・移動バスと ○何か他のサービスを合体させる、○Uberのようなサービスを四万十方式につくってみる、とか。
結果的に利用の幅が拡がり、多目的に使い、利用が増えるような試みがあると嬉しい

- ・もみわ図書館のように、タブレット端末の貸出などICT活用の教育、自然との共存、バランスよく取り入れて
四万十町ならではの図書館にしてほしいです



- 外観の重厚に感じる印象に比べて、中は開放的で明るく雰囲気も柔らかく居心地がいい
- 屋外の広場に図書館の邪魔にならないデザイン、テントか東屋があると有難いと感じた。移動も可能ならなお良いかも。食事や読書するには暑かったりするのでは？
- 静か過ぎて、張り詰めたような緊張感はなく、適度なザワザワ感気軽に利用出来そうな印象で素敵
- 時間制限つきとはいえ、ipadの貸出があることに驚いた
- 郷土資料が自然に、センスよく配置されていて、古ぼけた感じがしない身近なものに感じるように工夫されているなと思った
- クッション、児童用の遊具が図書館の雰囲気に合うように配置されていて、好感がもてる
- 裏手のテラスには駐車場からは入れない造りになっているようだった。何故かな？(入ろうと思えば、入れるが誘導している風ではなかった)
- 植木も今後の成長が楽しみな感じ。四万十町の図書館が出来るときも、ランドスケープデザインにも力を入れてほしい。
表頁秋冬で図書館を涼しくすると嬉しい



光を取り込むような設計?により、館内が開放的な雰囲気になっているのはとても良いと思う

使いたい用途に合わせて、天井の高さは変えてもよく。すべてを開放的にする必要もないので、集中したい人向けには天井が低くてもOKとか、スペースは創意工夫できると思う

実際の利用者に聞いてみると、混雑時にはカウンター席があっても足りないことがあるとのこと

ゆったりした空間、確保できる椅子や机のスペース、悩ましいところだとは思いますがどちらのいい面も取り入れることが出来たらとても良いと思う

ある程度、子どもがはしゃいでしまっても、走ってしまってもかまわないというような許容範囲の広さ（実際のスペースと考え方）は魅力的

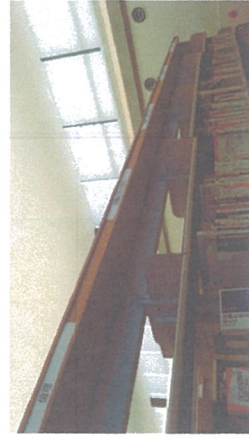
移動バスも活躍しているそうで、四万十町のように広い地域にはやはりほしいアイテムだと感じる

移動バスと何か他のサービスを合体させる、Uberのようなサービスを四万十町式に作ってみる、とか利用の幅が広がりが、結果的に利用者数が増えるような試みがあると嬉しい

2	え こうざく おんがく えんげき	スポーツ あそび
---	---------------------------	-------------

1	親子関係 子どもの発達	家庭での教育 子育て 子どもの育ち 孫育て
---	----------------	--------------------------------

32	美術館 彫刻 日本画 洋画	倫理 宗教 神道・仏教 キリスト教
----	------------------------	----------------------------



- ・ 初めの入館者にも、とても分かりやすくできていると感じた（サイン）
 - ・ 本の分け方、タイトルのつけ方、利用者目線で工夫されていてとても好感が持てた
 - ・ 探しやすいし、狙っていた分野以外のジャンルにも手を伸ばしたくなる
 - ・ 膨大に増え続ける、チラシやパンフレット、案内状etc 大事な情報源や交流の証ではあるものの、管理の工夫は四万十町としても対策を練っておいてほしい。
- 句で貴重な情報は、すばやく手に取れると嬉しいし、
県外や海外の新しい情報も日常触れることができれば、
町民、とりわけ子どもたち、の刺激や交流に繋がるものと思う。
- もちろん、町の情報、議会便りなども。



- ジャンル別、形態別、など「分け方」でとても工夫されているなと思う
- この情報過多のなか、どういう情報が旬で、どういった取り方が選択としてあるのか意識して展示してあり、利用しやすいように感じた
- お金のかからないアイデアで、同じ本でも違う視点で見られて楽しい。BOOKレビュー。
- 「図書館100連発」など、全国の図書館のアイデアを紹介している本なども参考に、とりいれていける自由さや柔軟さがあると思う
- 同じように、利用者が常に「受け手」ではなく「発信者、サービス提供者」になるような試みもあってもいいかもしれない



- ミーティングルーム、チャットルーム、AVコーナー、静寂読書室、eラーニンググループと、利用者の住み分けができるようにしてある
- このことが利用しやすさに反映されている、と地域の女子中学生も言っていた
- 放送大学で修学できるよう援助されている、ワークショップも気軽に開催できる場所も提供されているので、生涯学習にとても良いと感じる
- 近頃、すべきであるのに、されていないと問題視されている
「大人の学び直し」の機会にも良いのでは
- 結果、年齢にしばられない利用の仕方、世代間交流が生まれるので利用者数もある程度、確保できるのではないだろうか



- 母子用に授乳室、ベビーベッド、給湯室があり非常に有難い
- 母仲間同士で図書館を利用して、一人がこの部屋で子どもを見守っている間、もう一人が本を探すこともできるのでは。とすると利用人数が多い時には少し手狭になるのかもしれない。
拡げるのか、利用の仕方工夫するのか。
- その観点で言うと、お母さんが本を探している一定の時間（10分でもいい）、赤ちゃんや幼児をみてもらえるサービスがあると、利用者はとても増えるとは思う
- 洞窟のような雰囲気のある「おはなし部屋」
子どもの記憶にもしっかりと残りそうで、素敵な空間だと思う
- 支援センターと連携して何かできないか？